

ソウル梨大前の様態と街のにぎわい

上田佳代子¹ 寺門 征男²

¹南葛西第二小学校教諭 ²千葉大学教育学部教授・工博

Activity Town in Front square of Ewha women's univ. (Seoul, Korea)

Kayoko UEDA¹ Yukio TERAOKA²

¹Minami Kasai Dai-ni elementary school ²Faculty of Education, Chiba University

This paper is note of field study on town activity and living performance in IDE-APH

キーワード：にぎわい (NIGIWAI) アクティビティ (Activity) 梨大前 (IDE-APH) 路店 (street stall) ライブ (living performance)

はじめに

街を歩く楽しみはそこに「にぎわい」を感じることから始まる。地域、時代によってその街の持つにぎわい、また求められるにぎわいは異なる。隣国である韓国も、日本とは異なるにぎわいを持っていると実感し、「にぎわうまち」を形作っている要因の一部分となっているのでは何だろうか考えた。街の中で過しながら調査当時の梨大前における街のにぎわいを形作る要因を明らかにするとともに、にぎわいとは何かの考現を試みた。

本調査は韓国の首都ソウルにて、2001年2月17日から3月15日までの約1ヶ月間、梨花女子大学の周辺の「梨大前」と呼ばれる街のにぎわいの実態について行ったものである。調査は現場でのデジカメの記録と観察記録、そして街の人々との会話とインタビューの中で行った。本研究では「その時」の梨大前のにぎわいについてのまとめと考察をしている。

1. ソウルの街と梨大前

(1) ソウルについて

ソウルは日本の隣国、大韓民国の首都である。1392年、李成桂の開いた朝鮮（李氏朝鮮）が始まる。朝鮮に古代からあった風水思想により、彼が選んだのが現在のソウルの地である。ソウルのほぼ中央には漢江（はながん）という象徴的な川が東西に流れ、北部を漢北、南部を漢南と呼ぶ。南大門市場を始めとする市場（しじゃん）や、学生街、ショッピングタウンなど魅力的な街が多く、ソウルは国民の4分の1近くが暮らす大都市でもある。

(2) 梨大前について

ここで「梨大前」と呼ぶ地域は、ソウル市西大門区にある梨花女子大学（梨大）を中心とした街である。梨花女子大学はソウルの名門女子大学と言われており、街は、女子大の雰囲気にあい、ファッション関係の店が集中しており流行やファッションにも敏感な場所のひとつであ

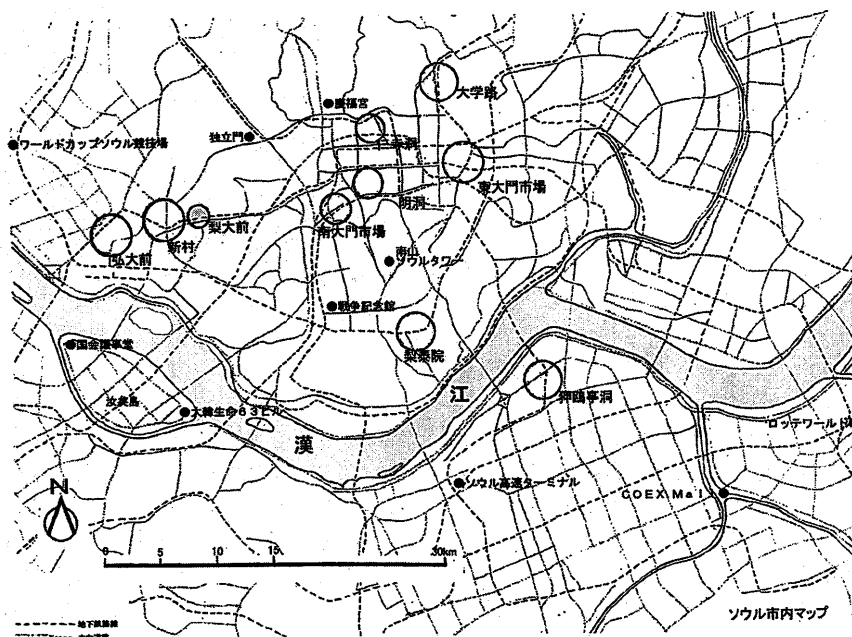


図1 ソウル市内中心部とにぎわいのタウン

る。手頃な価格の服や靴など、若い女性向きの店が軒を連ね、美容院が多い場所として有名である。近くには延世大学など、学校の多い場所でもある。

2. 街景の調査にあたって

梨大前の街のにぎわいを形づくる要素を明らかにするために、この街にある楽しさの発信源である「店」の調査を行った。この「店」は大きく2つに分けられる。建物内に店を構え商う常設商店と、路上に店を構えて商う路店商である。路店は日本とは異なり、韓国の街を歩いているとよく目にする景観で、韓国の街の風景には欠かせない街景である。

(1) 常設商店から見る「街」景

梨大前における常設商店の「商うための工夫」について述べる。まず、靴屋では商品である靴を小さな店の床から天井近くまでディスプレイし、路上へも雛壇型の商品棚（写真1）を出し種類や数の豊富さをアピールしている。次に、服屋では店いっばいにたくさんの服が天井や壁からぶら下げられている。そして店の前にはハンガーや網型パネルに掛けた服を路上にまで出しており、まるで市場のような雰囲気がある。女性向けの服屋では、マネキンが3体、4体と外に置かれている（写真2）。かばん屋も靴や服と同様に店内いっばいに、そして商品の横にも下にもと折り重なるようにディスプレイされている（写真3）。化粧品を売る店では外に出しているワゴンいっばいに入れられており、アクセサリーなどの店では店の前に路店を出しているのとはほぼ同じ状態で商品はテーブルの上に陳列されている。

共通して言えることは、どの店でもどんなものを商っているかを路上に向けて示す。つまり道行く人の視線、興味を持たせ、店内に入ってもらうためと買ってもらうためとが共存している。そしてこういった店は天井から床まで、そして壁も路上にも商品のディスプレイをしており、路上と店のフロアがはっきりと区切られておらず路上も店の一部のようにディスプレイの場として利用されている。その様子は店と路上が一体感さえ醸し出している。店で働く人は常に路上に立ち、道行く人、ディスプレイに目を向けた人に声をかけている。このような店に強い活気、楽しさを感じるのである。そして、このような常設商店のディスプレイの方法は、常設商店とは別物であるはずの路店と同様に路上へと出ている。つまり、路上を歩く人々に商品をより近くへとアピールできるようにディスプレイを路上へと向けている点で同じであると言える。

常設商店の分布は、別図のように各階ごとに業種を分類した記号を用いてマップに表した。地下1階から地上4階までの常設商店の分布マップを通してわかることは、3、4階に商店が多くないことから高層のビルが少ないといえる。その分布から高層のビルがあるのは大きな車道に面した通りである。梨大前で営業している店の多くが1階～2階に集中している。2階に全く店のない通りがあることから1階部分だけの建物も多いと言え

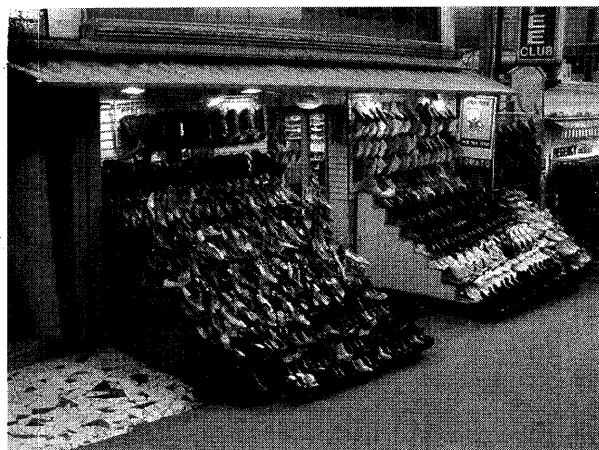


写真1 靴屋

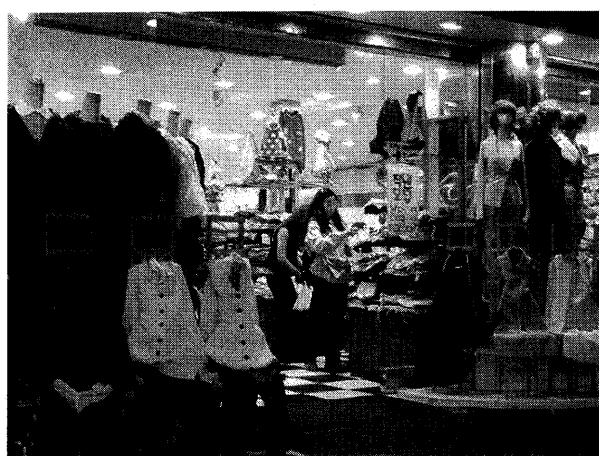


写真2 服屋（女性）



写真3 かばん屋

る。

まず、地下1階については地下に店が少ないことと、店の種類は少なく、喫茶店やPCばん（インターネットカフェ）などが比較的多い。1階すなわち地上階については、それぞれの店がひしめき合って営業しており、ほとんどの通りにおいて服を扱う店が最も多く服屋がずらりと並んでいる。そして靴屋は隣接する場合や、同じ通りで集まって営業している場合が多い。服を直してくれる服修繕屋は本研究の調査範囲では中央通りから梨大側には見られなかった。中央通りの角は服屋が多く、靴屋

¹ P.6(2)路店商から見る街景を参照

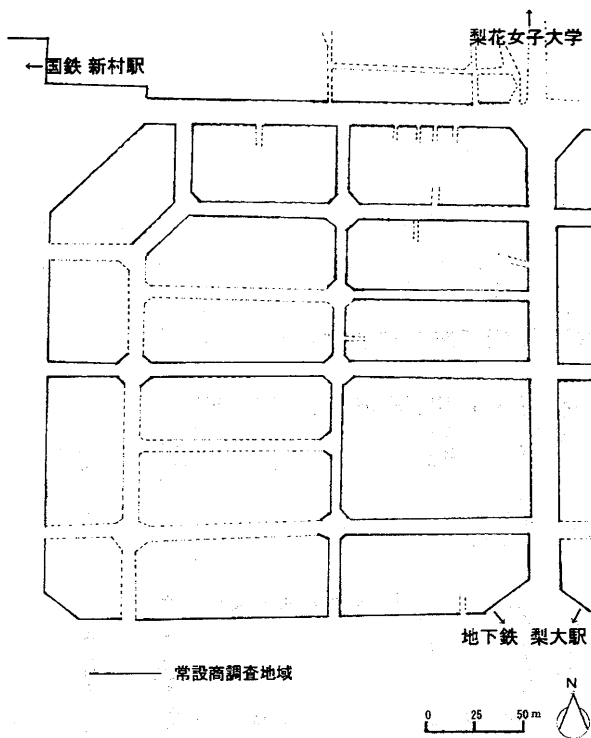


図2 常設商店調査地域

やアクセサリー、化粧品屋が多く見られることからも梨大前におけるイメージとして「ファッション」が出てくるのだと思われる。2階では、ファッションとともに梨大前に多いとされる美容室の分布が見られ、美容室が集まって営業している。2階には美容室の他には喫茶店が次に多く、3階になると比較的店数は減る。医院が割合的に多く見られ、その内訳として整形外科が多く開業している。そして3階には、地下1階にもあったPCばんなどの娯楽スペースが再び現れる。3階部分における店の少なさの割には美容室も多く、ここからも梨大前における美容室の多さを見ることができる。

(2) 路店商から見る「街」景

路店商とは、路上で営業するいわゆる屋台である。日本では「露店商」という漢字が充てられているが同じ漢字語圏の韓国では「路店商」の漢字が充てられている。韓国では路上において日常的に見ることができ、繁華街または通りでは必ず出店、営業されている。売っているものはアクセサリー、ぬいぐるみなど多種多様である。食べ物は片手で食べられるおやつタイプのものから、調理してもらいテーブルで食べるようなものまでである。路店商は、基本的に各自治体に登録し営業することになっている。プレート型の営業許可証を各路店に貼っている。

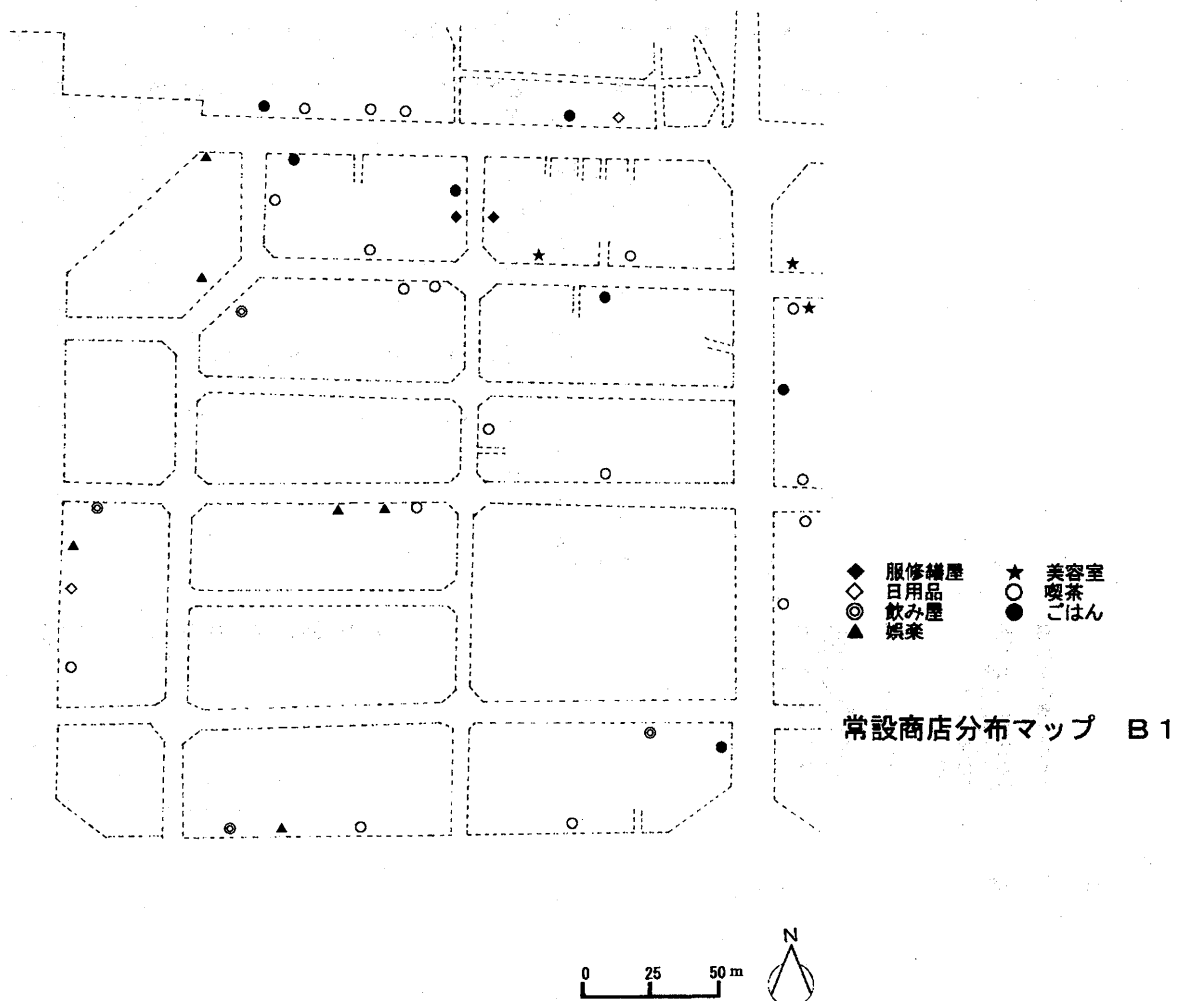


図3 地下1階常設商店分布

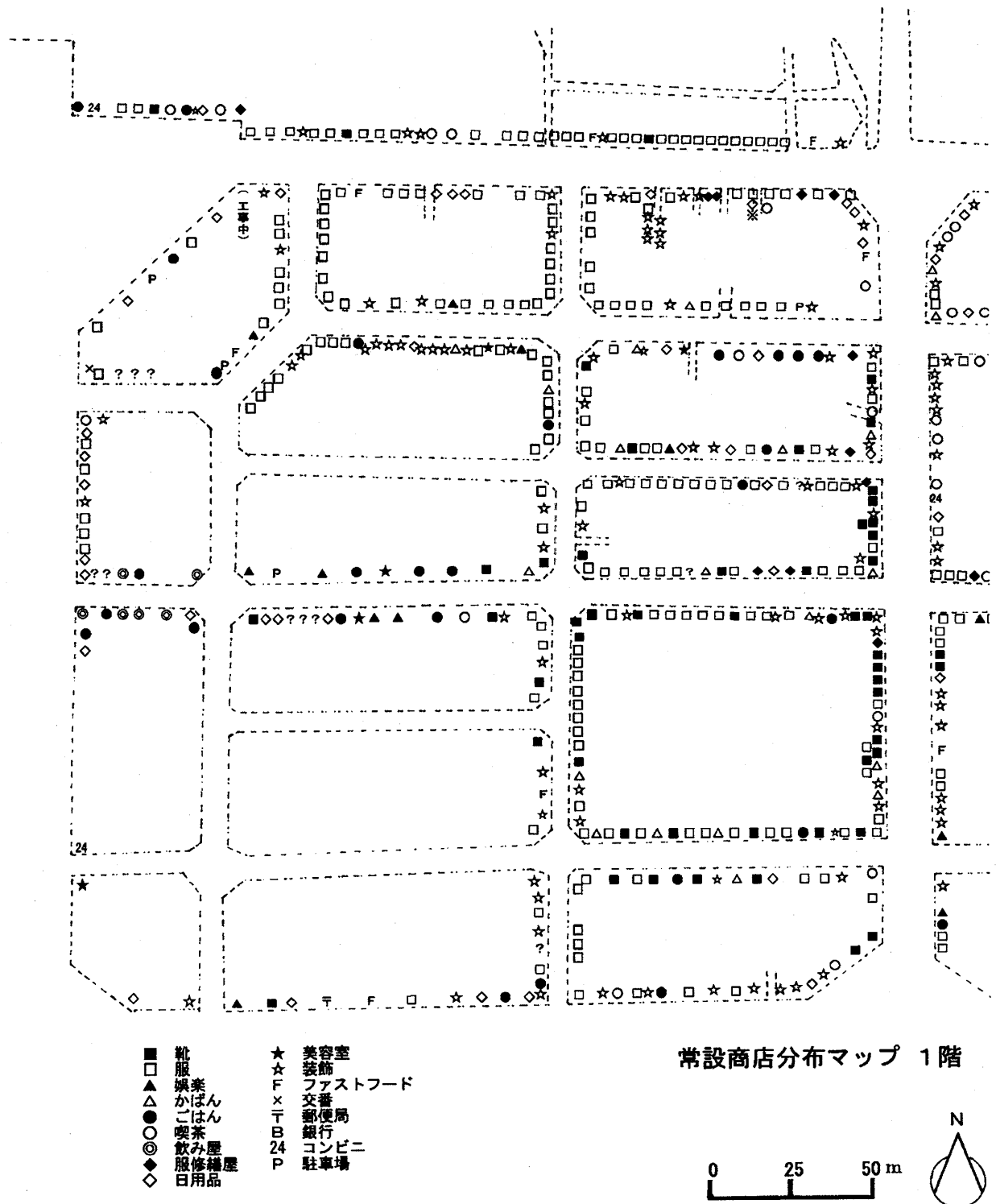


図4 1階常設商店分布

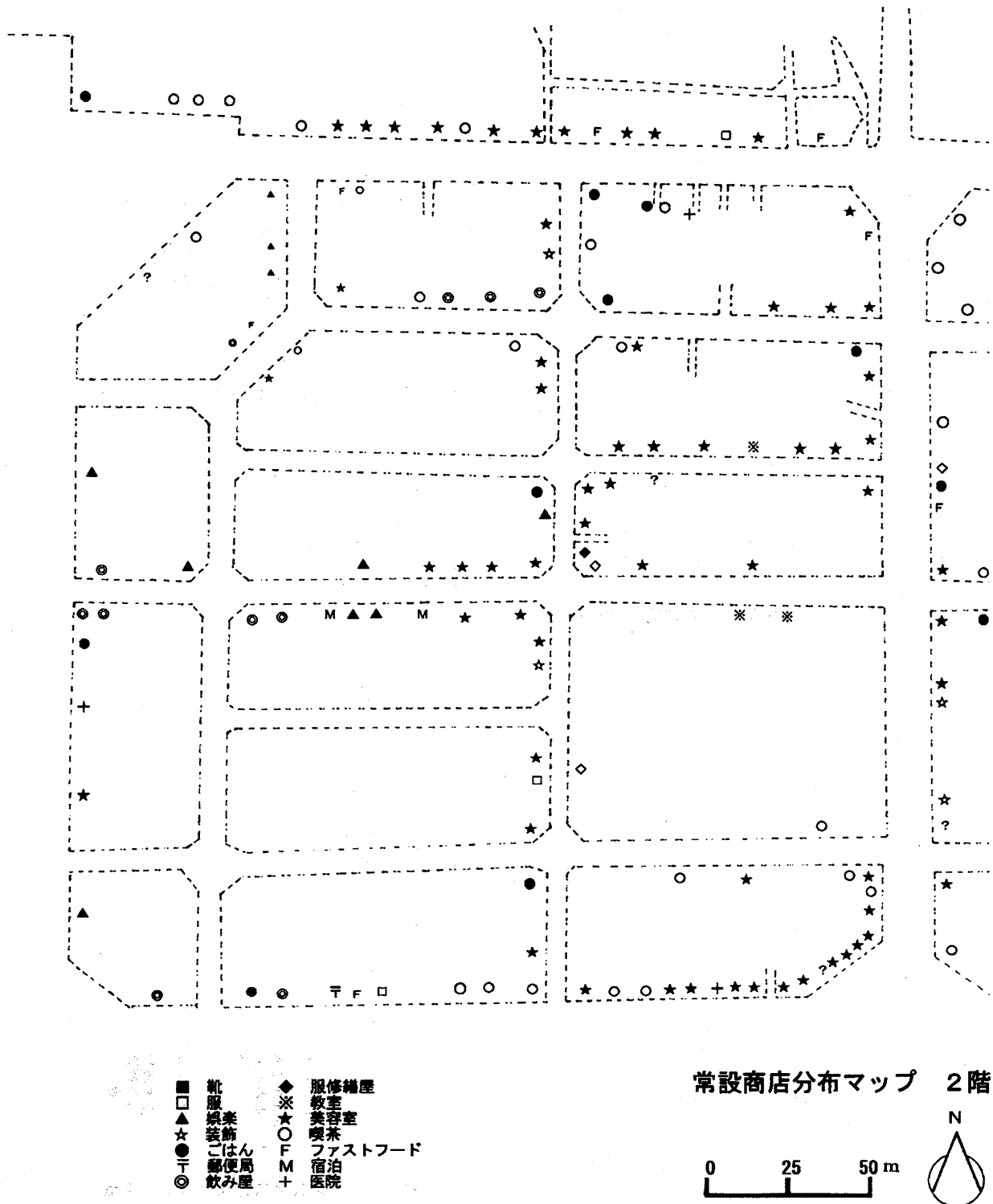


図5 2階常設商店分布

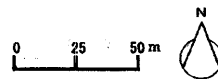
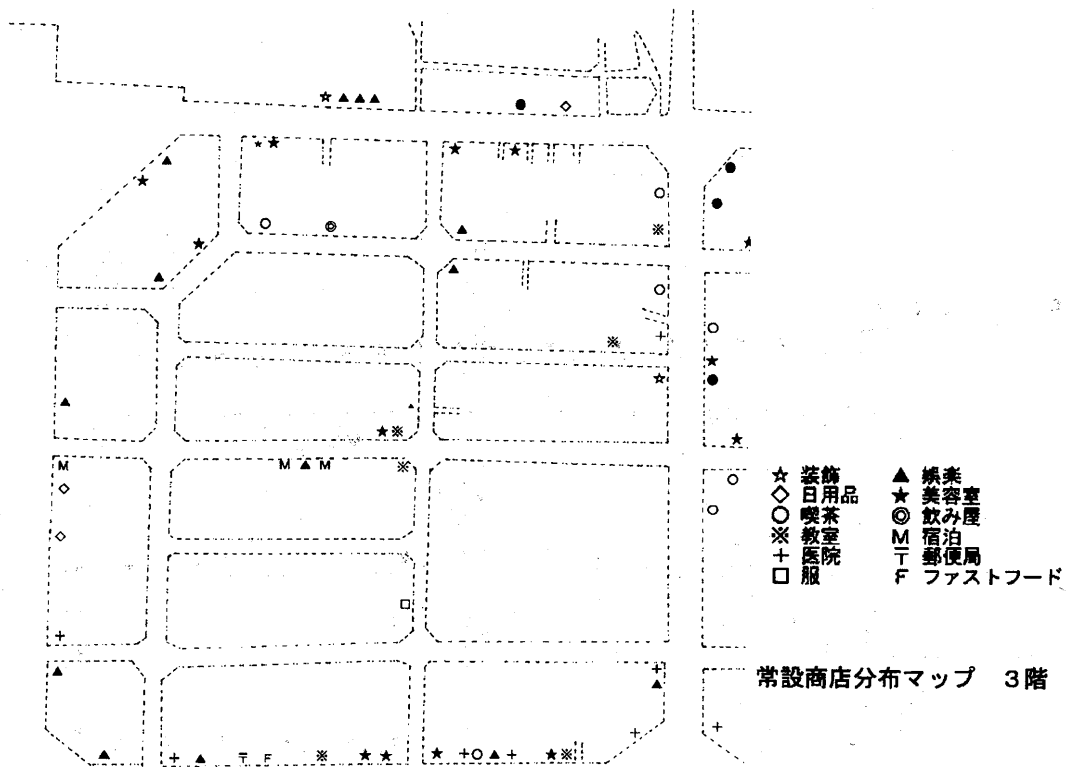


図6 3階常設商店分布

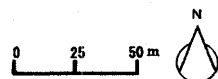
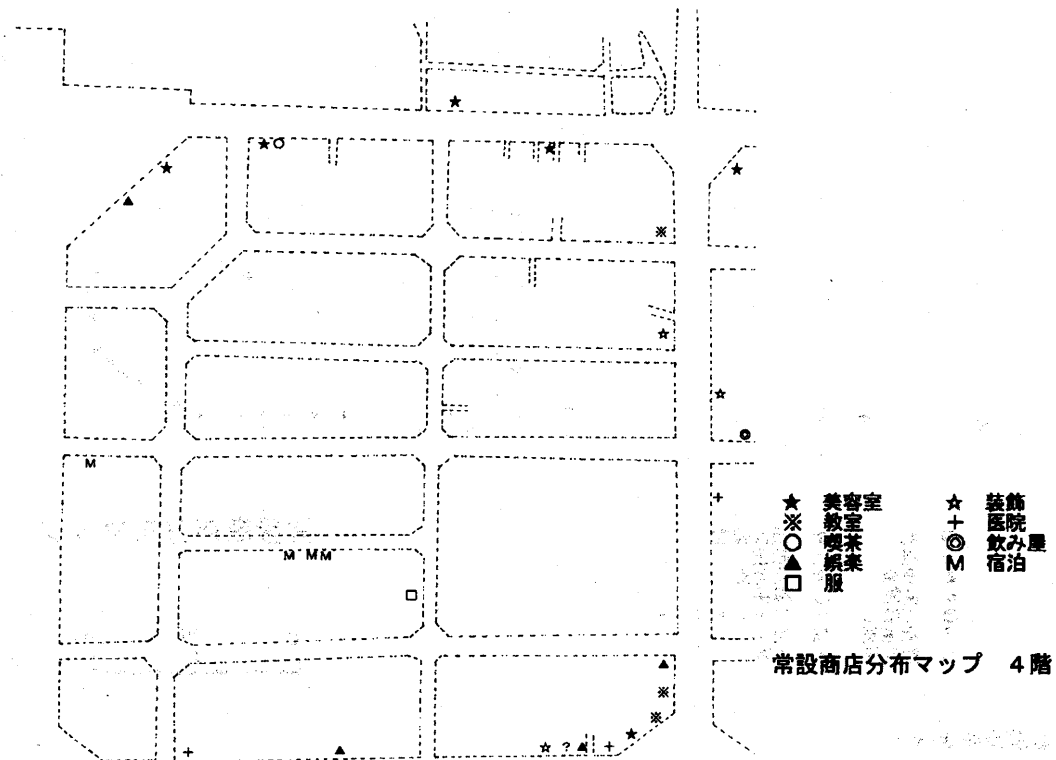


図7 4階常設商店分布

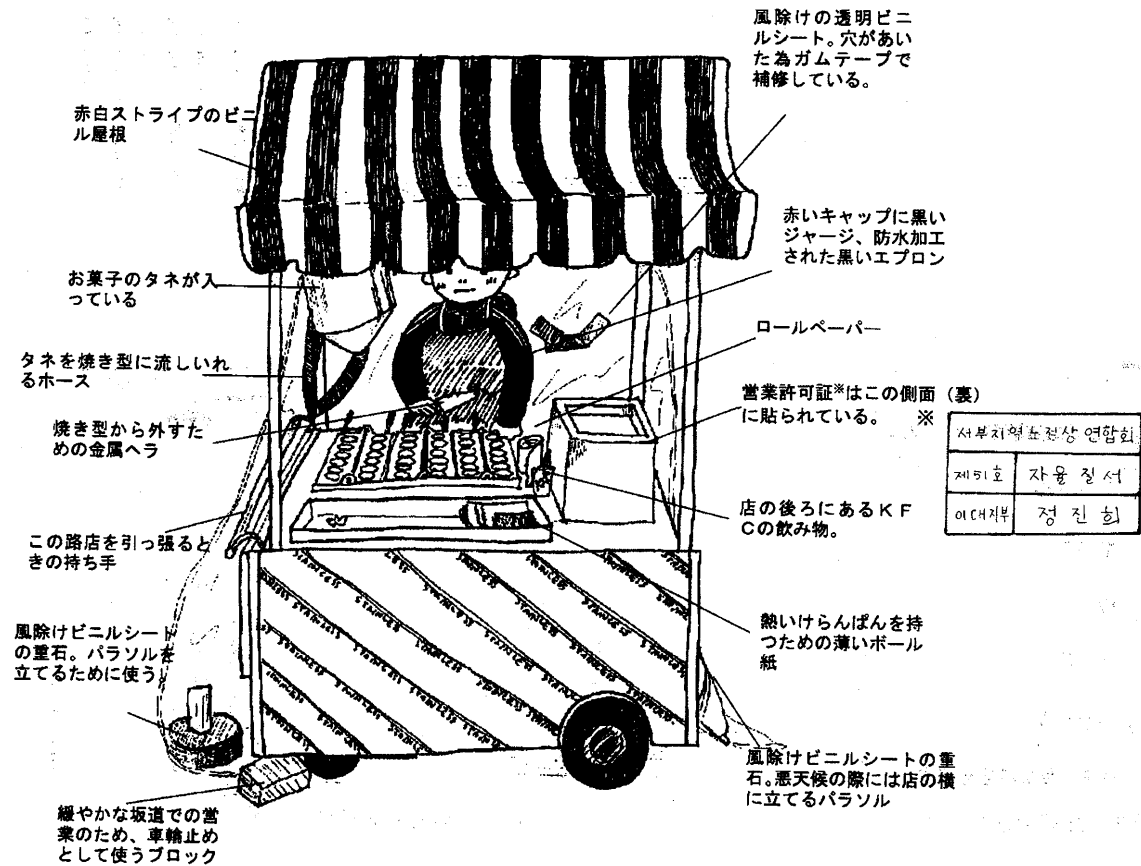


図8 路店商（けらんばん屋）の様態

梨大前では約70の路店商が登録しているとされるが不法営業もありその数は自治体でも把握しにくいのが現状である。路店商の商いスタイルは様々で図9のように「リヤカー型」「テーブル型」「クルマ付き調理台型」が多く見られる。このうち「リヤカー型」「クルマ付き調理台型」は自分の営業時間以外は多くの商人がこれらの「店」を街中にある専用の駐車場に止め、営業時間になるとそこから各通りへと向かう。「テーブル型」の路店商は店となるテーブルや売り物を通りの建物内に納めている。

梨大前の路店商の一つである、けらんばん屋（図8）の開店から閉店までを観察すると、そこから商人が周りの路店商や常設商店の商人とのつながりを持つ様子が見られる。例えば、路店の前のKFC（ケンタッキーフライドチキン）は日常的にトイレとして利用されると同時に、そこで飲み物の購入にも利用している。路店を離れている間は、隣の路店に見てもらい、お客さんが来ない時は、後ろを向いて座ったり、携帯電話で話をしたりする様子が見られる。

けらんばん屋を通して、路店は単にモノを売っているだけの場ではなく、ここにはモノとカネの流通だけではない、ごく自然な人とのふれあいと交流が見られる。商人にとってここで店を商うことは「働くこと」であり「生活すること」である。働くときは働き、笑うときは笑い、休むときは休む。こうして商人は毎日を活き活きと生きて生活をしているのである。

表1 路店の通り別出店数

日時	2001/3/5 (月)	2001/3/10 (土)	2001/3/10 (土)	2001/3/12 (月)
	19:40 ~ 20:30	13:30 ~ 14:30	17:00 ~ 17:30	8:30 ~ 9:00
梨大正門通り	20	18	20	2
梨大前通り	11	12	13	0
国鉄通り	1	1	2	0
新村路通り	15	11	21	0
中央通り	9	3	7	0
全体	56	45	63	2

路店商については、別図のように路店の営業実態を4つの時間帯に分け、梨大前の通りごとにマップにした（図9, 12, 13, 14, 15）。売っているものは食べ物だけでなくアクセサリや雑貨も多いことから、人々は路上を歩くだけでも多様な商品を目にすることができ、通りによって出店数は2店から20店と差があることがわかる（表1）。梨大前の中央通りでは路店の数が他の通りと比べて少なく、国鉄通りは路店の数がもっとも少なく、平日は1店のみが営業し、週末でも路店の数が2店のみである。新村路通りは路店の数が、週末の昼間には少ない反面、夕方にはその通りにはずらりと路店が並び、その数がもっとも多くなる。（図9, 12, 13, 14, 15は2001年3月10日土曜日17:00～17:30に調査したもの。）

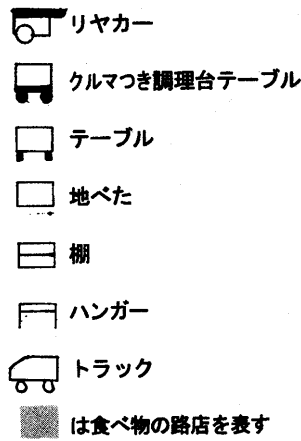


図9 路店の形態

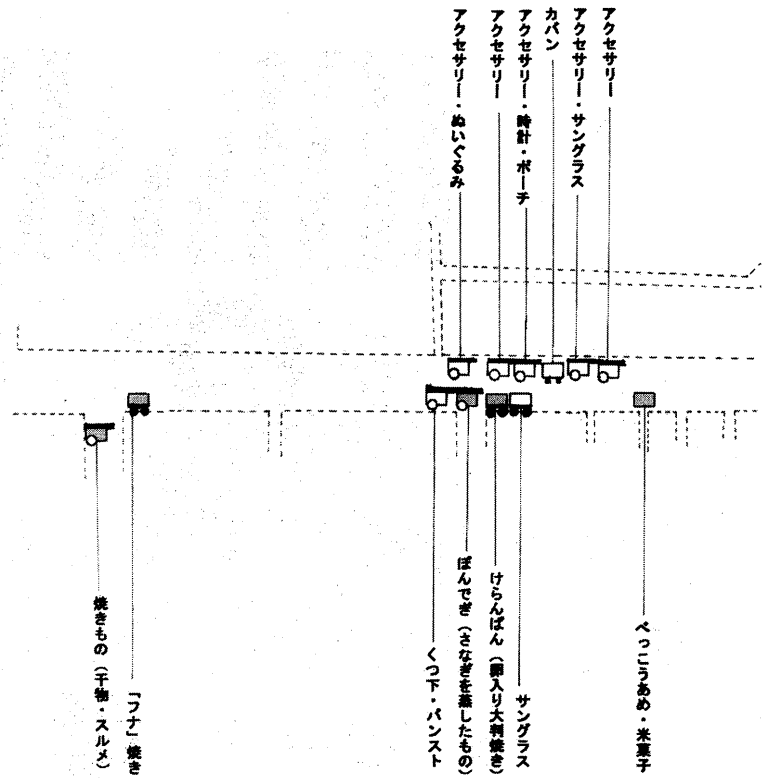


図10 梨大前通り路店実態

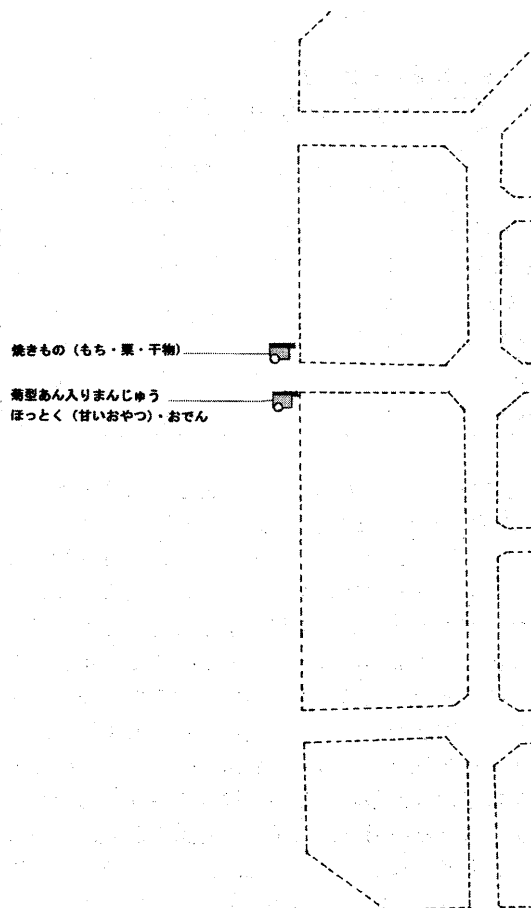


図11 国鉄通り路店実態

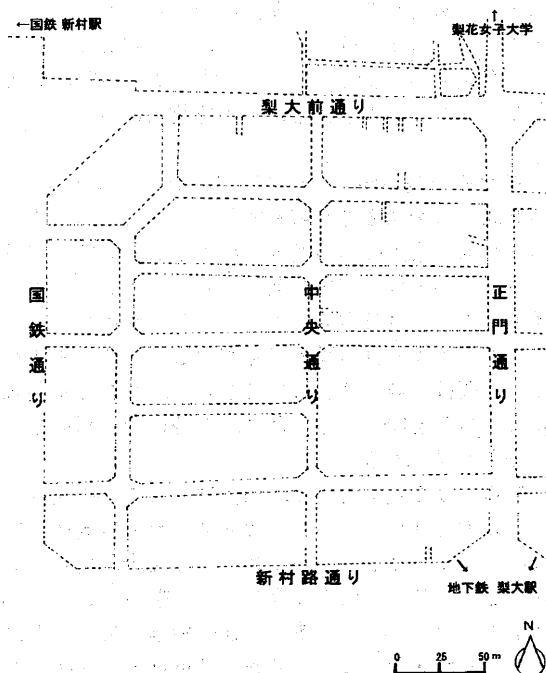


図12 梨大前通り分布

ソウル梨大前の様態と街のにぎわい

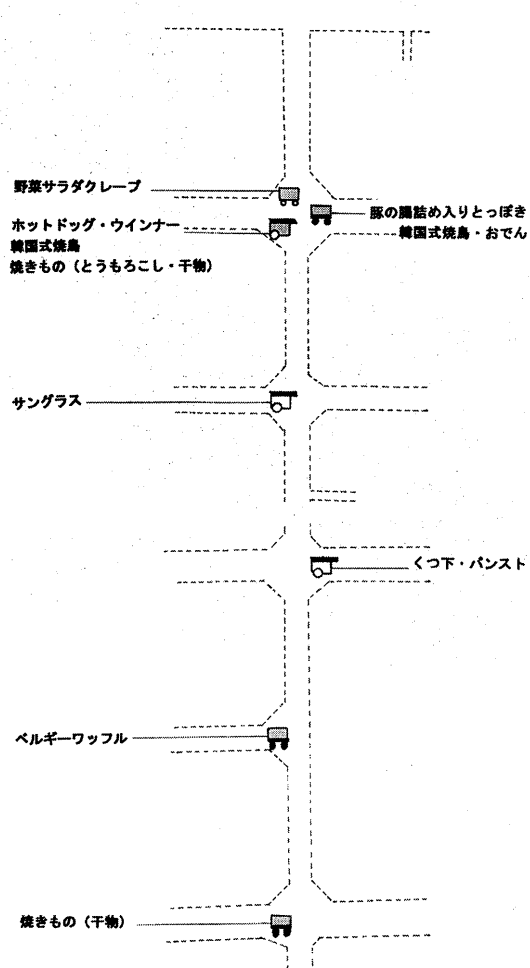


図 13 中央通り路店実態

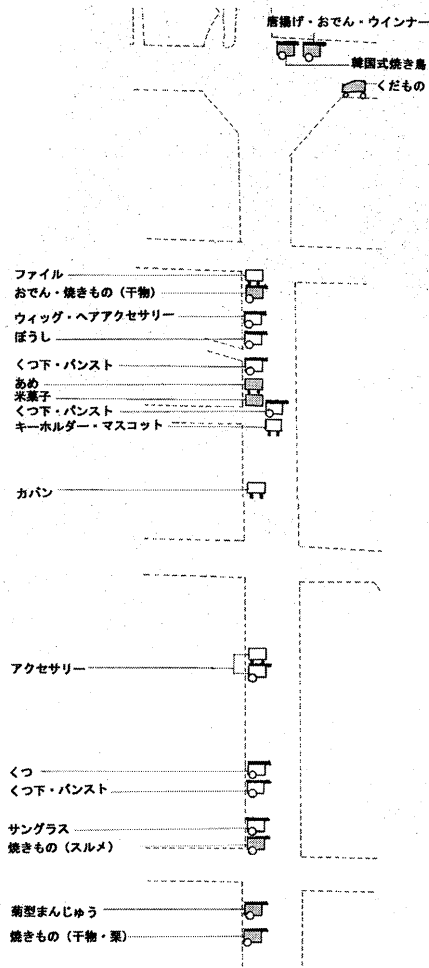


図 14 正門通り路店実態

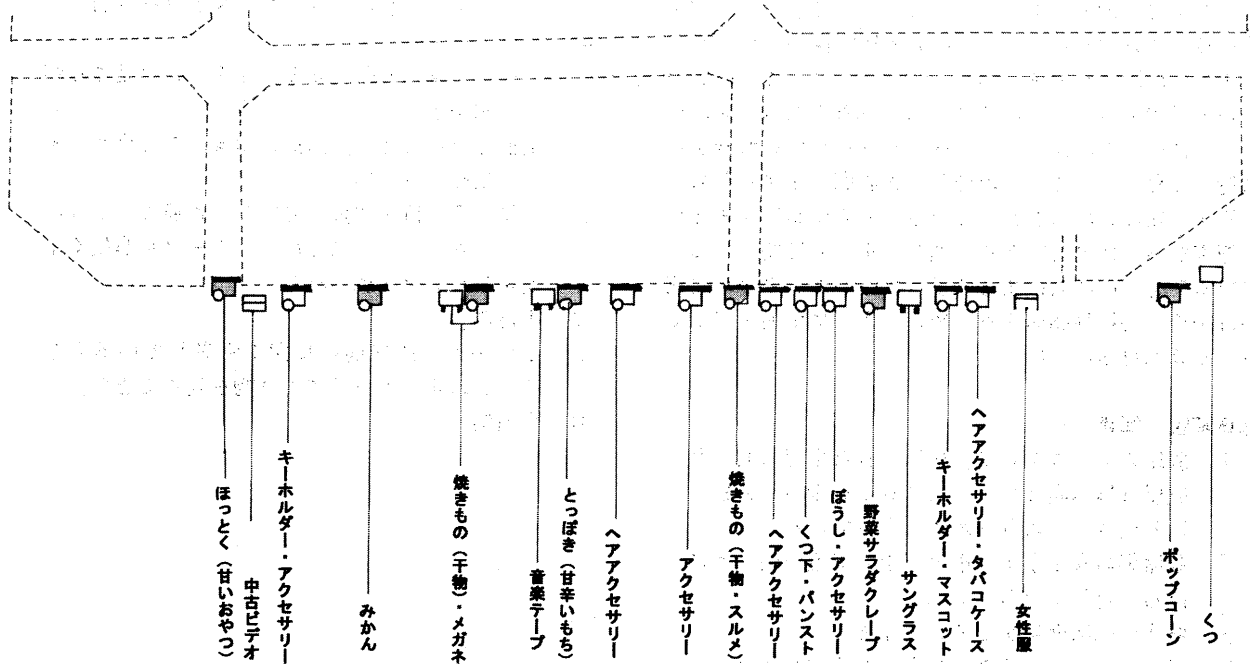


図 15 新村路通り路店実態



写真4 2001年3月10日土曜日 14:30・路上で食事をとる商人

(3) 人々の様子

土曜の昼、路上（車道）で出前の昼ごはんを食べているところで、食べているものはチゲ（鍋）とごはんキムチである（写真4）。一方、韓国の常識に反し、椀を手に持って食べるという大変興味深い。椀はテーブルの上に置いたまま、「すっから」（さじ）で食べるのが韓国式であるが、ここではごはんを置くスペースが椅子の上に置いたおぼんという狭く不安定なためお椀を手に持って食べている。この通りの路店商の兄さんたちは仲間と一緒にごはんを食べている。開店がお昼前後と早い週末ならではの姿である。通りを歩く人は路上で食べる姿を一向に気にする様子はなかった。平日、路店商は午後4時以降開店するためこのように出前を路上で食べる姿は見られない。

写真解説（写真4）

- ① 服屋のディスプレイ。整備された歩道に面した服屋は外へ向けたディスプレイも歩道へあまりはみ出さないよう控えめにされている。
- ② 制服姿の女子学生。車道を歩いて道の向こうに渡ろうとしている。
- ③ 路店の開店準備をしている兄さん。
- ④ ボード。キーホルダーなど小さくぶら下げることが出来るものをディスプレイするために用いられている。

- ⑤ ディスプレイ用の網。
- ⑥ 路店の開店準備をしている兄さん。
- ⑦ 路店の人々がトイレとしても利用しているKFC。日本でもおなじみのファストフード店。
- ⑧ リヤカー型の路店。
- ⑨ ごはんを食べる路店商の兄さん。この兄さんがいる側が車道。
- ⑩ 出前されたごはん。出前はおぼんごと小さなイスに載せられている。
- ⑪ お椀を手に持って食べている。普通このようにもって食べることはしない。テーブルが狭く不安定なためだと思われる。
- ⑫ 歩道側。
- ⑬ この辺りで路店商は集団で営業しているらしく、このオートバイで売り物を運んできた。
- ⑭ 車道側。



写真5 2001年3月8日木曜日 18:12・美容室の店員(左)が路店で買う

とっぼきの路店では何人分かは不明だがビニル袋いっぱいにとっぼきを買っていた(写真5)。梨大前に買い物きた人や学生だけが客ではない。梨大前で働いている人たちがまた客である。服屋や靴屋、美容室で働いている人がちょっとしたおやつ代わりに買っていったりする。

路店の食べ物小さなテーブルスペースで食べることもできるし、まとめて買って、自分の職場で食べることもできる。同じ通りにKFCもコンビニもあるにも関わらず、路店は以前から今日まで、日常的に愛好されている。

写真解説(写真5)

- ① アメリカ本社のスターバックスコーヒー韓国1号店「梨大前店」。
- ② この路店の主人であるおばちゃん
- ③ ここのスターバックスは3階建てで席数も多い。道の方を向いたカウンターで飲む人
- ④ 携帯電話で話しながら歩く人
- ⑤ 「ANY TO GO」プレッツェルを売るカフェ
- ⑥ 日本にもある化粧品などを取り扱う「THE BODY SHOP」。
- ⑦ 数人分のとっぼきを持ち帰り用にビニル袋に入れている
- ⑧ おでん

- ⑨ 前にある美容室の姉さん
- ⑩ リヤカー型の路店
- ⑪ 割りばし。普通、とっぼきはつまようじを使って食べる人が多い
- ⑫ お茶。置いてあるところは珍しい
- ⑬ おでんを食べるときにつけるしょうゆダレ
- ⑭ 汚れたところを拭くにも、口の周りが汚れたときにも便利な路店の必需品ロールペーパー
- ⑮ おでんのスープを入れる紙コップ。おでんのスープはお代わり自由
- ⑯ 若い女性のお客さん
- ⑰ 路店のテーブル下には営業に必要な設備や材料が置かれていることが多く、これは水の入ったポリタンク

3. 考 察

街のにぎわいの主人公は人々である。これは通りに関するすべての人々のことである。通りにいる人すべてがにぎわいの発信者であると同時ににぎわいの参画者となっている。それは無意識のうちに各々の活動そのものや、活動から発せられるものが、街の持つ他の要素とつながってにぎわいの核を形成している。梨大前の路上が梨大前のにぎわいにおけるステージであるとともに、通り



写真6 土曜の午後、街を行く女子学生



写真8 路店で食べる人々



写真7 出前途中のおばちゃん



写真9 路上調理をしている食堂

の常設商店と路店商はお互いに無関係に商いを行っているのではなく、梨大前というコミュニティの中で関係をつくりだしている。路上では様々な人とモノ、パフォーマンスが常に目に入り、五感で感じることができる。路上にはその場にいる人によりつくられたにぎわいの場がある。このように路上にいる人々に対して、常設商店も路店商も人を同じように惹きつけることができ、これらが組み合わせることで、より人々を惹きつけることができるのである。これは買う人だけでなく、売る人も然りである。その路上において人は人に向けて活動し、やりとりを交わす。このやりとりは経済活動的なモノとカネの交換だけにとどまらない交流であると同時に、共感である。そしてこの活動や交流はその人の生き方、生活までも垣間見ることができる「ライブ」である。「ライブ」は商う人、歩く人など、そこにいるすべての人によってつくりだされ、すべての人が味わうことのできる共感である。そしてこの「ライブ」が街にいる楽しさを感じさせ、多くの人を惹きつけているのである。すなわち、梨大前における街のにぎわいは「そこに参画するすべての人を主人公とし、路上をステージとして行なわれる人と人の活動や交流がライブであり、このライブそのもの」と定義したい。

参考文献

- 『韓国ソウル梨大前における街のにぎわい』 上田佳代子（教育学部住居学研究室 2001年度卒業論文）
- 『勝浦の朝市の様態』 鈴木綾子（教育学部住居学研究室 1996年度卒業論文）
- 『ライブツィヒの市場と人々の暮らし』 田村絵美（教育学部住居学研究室 1999年度卒業論文）
- 『おばあちゃん原宿 巣鴨とげぬき地蔵の考現学』 川添登 編（平凡社）1989年
- 『変わる盛り場 「わたし」がつくり遊ぶ街』 サントリー不易流行研究所 編著（学芸出版社）1999年
- 『いまだき世紀末盛り場考 「にぎわい」の新風景』 川本三郎 他著（日本経済出版社）1997年
- 『中国庶民生活図引【食】』 島尾伸三・潮田登久子 著（弘文堂）2001年
- 『考現学入門』 今和次郎 著（ちくま文庫）1987年
- 『中央線なヒト 沿線文化人類学』 三善里沙子 著（プロンズ新社）2000年
- 『ふつうのファッション』 太田垣晴子 著（メディアファクトリー）2001年
- 『歩くソウル』 キムキュンキョン 編（キョーハンブックス）2001年